



「ヤマトネイチャーサークル」は、株式会社ヤマトが行なっている様々な自然環境への取り組みの総称です。

さらなる自然との共生を目指し、地域社会や自然環境への貢献を目的として「ヤマトネイチャーサークル」は幅広い情報を発信していきます。

葉画家 群馬直美の ヤマトビオトープ園の葉っぱたち vol.62 絵と文 群馬直美

笑う角には福来る《カシワとリンゴ》

今回は、5月の終わりのヤマトビオトープ園で出会った、
幼きものを2つ並べて描いた。

左の葉っぱは、カシワのまだ幼い葉。形は一見穏やかだけど……。
短い葉柄のところから輪郭をたどって行くと、低い丘の連なりから、
いきなり断崖絶壁の山へと変わる。

ほぼ垂直の急斜面を死にものぐるいで登っては降りるを2回繰り返すと、
鼻歌まじりで歩くのどかな山のハイキングコースとなる。

— 1枚の葉の中で、冒険活劇のドキドキ感と、
メアリー・ポピンズのようなワクワク感が両方味わえた。
右側のちっちゃい実はリンゴの樹から、実のはじまりを1つ。
ほんのり桃色に染まって、長い柄も赤みを帯びていて魅力的。
しかも柔らかな産毛におおわれている。

こうして描いてみると、なんだか舞子さんのかんざしみたい。
とてもかわいい。

じつはカシワの葉は31年前にも描いている。

そのときも、そして今回も、カシワの葉っぱを描きながら
私は呪文のように「にっこり微笑むカシワの葉……」とつぶやいていた。
真ん中の主脈から左右に伸びる葉脈が、まるで口角を上げて微笑んでいるみたいで、
私の目には葉っぱが笑っている様にはしか見えない。
カシワの葉っぱは枯れ葉になっても春先まで枝に付いているので、
葉守りの神が宿るといわれ、縁起がよいとよく庭に植えられているけれど、
こんな風に笑っている様にはしか見えない葉っぱを付ける樹は、
たくさんの福を呼ぶに違いない。
カシワの葉っぱの様な笑顔があふれる世の中になりますように。

表紙の絵 「カシワの葉っぱとリンゴの実のはじまり」

にっこり微笑むカシワの葉と舞子さんのかんざし。

・紙(アルシュ極細目)/テンペラ・油絵の具
・size:310mm×230mm

・2022.7.27完成
・ヤマトビオトープ園にて2022.5.27採集

© Naomi Gumma

建設プロダクト  ヤマト

株式会社ヤマト 総務部広報室

2022年9月発行

〒371-0844 群馬県前橋市古市町118 TEL.027-290-1800(代) FAX.027-290-1896

ヤマトホームページ www.yamato-se.co.jp

群馬直美 GUMMA NAOMI プロフィール

高崎市生まれ。1982年、東京造形大学絵画科卒業。在学中に新緑の美しさ、その生命力に深く癒された経験から、“葉っぱ”をテーマとする創作活動に入る。「葉っぱの精神—この世の中の一つ一つのものは全て同じ価値があり光り輝く存在である」に則り、1991年テンペラで克明に描く現在の作風に至る。著書に『言の葉 葉っぱ暦』『群馬直美の木の葉と木の実の美術館』他。東京都立川市在住。 <https://www.wood.jp/konoha/>